

兵庫県神戸市 シェラトンファーム

人工島 六甲アイランドに

農ある風景を創出！

ホテル併設の商業施設の屋上で、貸し農園を開設



Point

農的空間

環境負荷低減

コミュニティ醸成

Data

農園の概要

[場所] 兵庫県神戸市東灘区向洋町中2-13
リバーモールイースト屋上

[面積] 144㎡（全16枠 / 1区画9㎡）

[設備] 貸し農園, 農器具庫, コンポスト等

運営体制

神戸ベイシェラトン ホテル&タワーズ /
ナチュラリズムファーム / 江副 真文氏

農園開設の経緯を教えてください

◆シェラトンファームは、神戸ベイシェラトン ホテル&タワーズ、ナチュラリズムファーム（市内西区で有機農業を営む大皿夫妻が主催する生産組織）、地元クリエイターの江副 真文氏が連携し、六甲アイランドにある商業施設の屋上花壇を活用し開設した屋上貸し農園です。

◆同ホテルでは、ホテル北側にある商業施設のオーナー交代をきっかけに、遊休化していた屋上花壇の活用を検討していました。その中で、ナチュラリズムファームの大皿氏より「都市部でも農業に親しめる場にしたい」と提案があり、2020年夏から農園づくりを開始しました。

◆雑草の草刈りや木枠づくり、土入れなどの作業は、市民参加型のワークショップ形式で実施し、六甲アイランドの住人や農業に関心のある市内の方など、計3回の開催で延べ70名に参加いただきました。

◆半年にわたる畑づくりを経て、神戸市が促進するアーバンファーマーミング事業*のモデル農園第1号として、2021年3月に貸し農園「シェラトンファーム」をオープンしました。第1期の利用者を募集した際には、ワークショップ参加者からも申込みがあり、一週間足らずですべての区画が埋まるほど、反響をいただきました。



*神戸市では、新たな食文化の都「食都神戸」の構築を進めており、都市部で農に触れる機会を創出するアーバンファーマーミングを推進し、支援事業を展開している。

取組の特徴を教えてください

- ◆農園には9㎡（3m×3m）の区画が16枠あり、そのうち1区画は当ホテルが利用・管理し、その他は一般の方に利用いただいています。利用者は六甲アイランドの住人や東灘区の方が多く、利用期間は半年間としていますが、継続利用を希望される方がほとんどです。
- ◆農園の利用に当たって事前説明会を開催し、無農薬栽培の実践や「一緒に農のある風景をつくりたい」という思いに共感してくれた方に利用いただいています。
- ◆農園のルールは、農薬と化学肥料を使わないこと。無農薬栽培であれば、野菜や花など自由に作付けができます。また、農園内には農機具庫があり、クワやスコップ等を用意しています。
- ◆居心地の良い場所づくりを意識しており、土に触れる機会が少ない六甲アイランドの癒しの場、地域との交流の場を提供しています。



工夫していることを教えてください

- ◆毎週、農家が訪れる「サポートDAY」を設け、日々の栽培で困ったことがあれば自由に相談できる運営体制を整備しています。サポートDAYを通じて農園利用者の交流が生まれ、地域のコミュニティとしてゆるやかな繋がりが生まれました。
- ◆農園の取組を地域の方に伝えたいという思いから、3ヶ月に1回「GREEN FARMERS MARKET」を開催し、野菜の販売をするほか、畑の様子を自由に見学できるように農園を一般開放しています。
- ◆2023年には、観光庁の支援の元、地元の食文化にふれる旅「ガストロノミーツーリズム」として、市内の酒蔵見学やシェラトンファームを屋外レストランの舞台としたプログラムを実施しました。多くの参加者に土や野菜に触れてもらい、地元産食材の魅力を知っていただく良い機会になりました。



農園に掲示されているサポートDAYの当番表



GREEN FARMERS MARKETの様子



今後の展望を教えてください

- ◆これからも「農」をきっかけとしたコミュニティづくりを継続することで、六甲アイランド生まれ・育ちの子ども達に「農」に触れる楽しさを知ってもらえるよう頑張りたい。そして、シェラトンファームの活動を通じて関わってくださる皆さんが、自分の「食」を見直すと共に、生産者のこと、日本の農水産業や食について考えるきっかけになればと思います。
- ◆まだ農園として活用されていない屋上花壇があり、今後調理スペースなどのイベントエリアとしての活用を検討しています。
- ◆2022年には、未使用エリアに小麦と大麦を植え、パンやビールづくりに取り組むプログラムを企画しましたが、麦は鳥に食べられてしまい、収穫には至りませんでした。今後は十分な対策をした上で、コミュニティで六甲アイランド生まれのパンやビールづくりに再挑戦したいと考えています。

兵庫県尼崎市 コミュニティファーム尼崎市善法寺

「田能の里芋」ブランド化を通して

都市農業を未来へつなぐ

地域の方や障がい者が共生するコミュニティ農園を運営し、都市農地を維持していく



Point

都市農地貸借法

伝統野菜

コミュニティ醸成

Data

農園の概要

[場所] 兵庫県尼崎市善法寺町 27-29

[面積] 約3,000㎡（生産緑地）

[設備] 農園、直売所、農機具庫、ピザ窯 等

運営体制

園北ファーム 内田大造氏（代表）

株式会社JR西日本あいウィル

ボランティア（中心メンバー15名程度）

農園開設の経緯を教えてください

- ◆コミュニティファーム尼崎市善法寺は、田能地域のコミュニティ農園「園北ファーム」とJR西日本の障がい者雇用を促進する特例子会社「JR西日本あいウィル」が共同運営するコミュニティ農園です。
- ◆園北ファームは、猪名寺自治会長を務める内田大造氏が、農あるまちづくりの実現のため、2018年に農地を借りてスタートしたコミュニティ農園です。行政・JAの後押しもあり、尼崎市内の都市農地貸借法の認定第1号として、耕作されなくなった生産緑地を借り受けました。地域住民をはじめ、近隣の小学校や幼稚園、若年性認知症の方などを受け入れ、コミュニティで野菜を栽培・収穫する取組が特徴です。
- ◆JR西日本あいウィルでは、昨今のデジタル化やコロナ禍をきっかけに、基幹事業である印刷業以外の障がい者の新たな活躍の場として、農業への参入を検討していました。2021年からは、JR西日本のアセットを活用し、駅構内や遊休スペースで地域の野菜販売を始めました。その中で、いつかは農業生産にも挑戦したいと相談していたところ、農家が高齢になり手つかずとなっていた生産緑地の紹介を受け、2022年4月から園北ファームと共同経営として「コミュニティファーム尼崎市善法寺」を始めることになりました。



取組の特徴を教えてください

◆尼崎の伝統野菜「田能の里芋」をはじめ、年間を通して少量多品目の季節野菜を、農薬や化学肥料を使用しない有機無農薬農法にこだわって栽培しています。



◆月・水・金は農園を開放し、併設する直売所で野菜を販売しています。安心・安全な野菜を購入できる究極の地産地消の場として、地域の方はもちろん、食への問題意識の高いママさん層にも好評です。

◆より多くの方に農の魅力を知ってもらうため、収穫体験イベントを実施しています。収穫以外にも、ピザづくり体験やお料理教室、畑でお絵かき体験など、工夫を凝らしたイベントを企画し、毎回20～30名の参加者に楽しんでいただいています。イベントの告知や申込はSNSを活用しています。

◆農園の日常的な管理は、半農半Xで参加しているボランティアの方々に支えていただいています。障がい者の方には、繁忙期にスポット的に農作業を手伝っていただいています。

「田能の里芋」のブランド化について教えてください

◆今後の収益性向上につながる取組として、尼崎の伝統野菜「田能の里芋」のブランド化に力を入れています。

◆田能の里芋は、直売所のほか市内の「コープこうべ」で販売しています。きめ細やかでなめらかな食感に、ほんのりした甘さが感じられ、味わいは大好評です。



◆地域の大学生・加工業者と連携し「田能の里芋コロッケ」を開発し、学校給食に提供するプロジェクトを行っています。2023年11月には、約2万個のコロッケを中学校の給食に提供しました。

◆2023年9月からは、近畿経済産業局の「地域団体商標等を活用したブランディング支援事業」に採択され、ブランド化に向けた取組が本格的に始動しました。地域の合意形成に向け、行政、生産者、JA、企業等で検討会議を行っています。

◆田能の里芋のブランド化を通じて、都市農業を維持するきっかけにしたいと考えています。認知度を上げることで、収益性を高めていくことや、里芋のファンクラブを作り、その中から農家の担い手を育てていくことが目標です。

今後の展望を教えてください

◆都市農地は地域コミュニティの再生の場として非常に重要であるため、これからも地域のコミュニティと一緒に農業を続けていきたいと考えています。

◆都市農業は、地域との調和・理解がなければ成り立たないと感じます。農園開設当初は、近隣住民から「機械のエンジン音がうるさい」等と言われてしまうこともありました。今では、みどりのある風景に共感し、一緒に農作物の成長を見守り、応援してくれる住民の方が増えてきています。